

## カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (歯科衛生学科)

○令和5年度の後期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

### 【成果・できていること】

- ・ すべての科目において、学生が履修するにあたって、より高い教育効果が得られるよう検討して、開講時期を設定している。卒業時までの学生の学びの到達のひとつの指標となると考えられる、歯科衛生士国家試験において、高い合格率を保っていることから、成果が上がっていると評価できる。
- ・ 教員は、隣接科目と、過度な重複を避けるように配慮している。
- ・ 「臨地実習基礎」(1年通年) 歯科医院見学実習ではこれまでの座学中心の科目で学習したことがどのように臨床現場で活用されているのか、学生は臨床現場から多くのことを感じ考えて、理想の歯科衛生士のビジョンを描き、2年次からの学習に対するモチベーションを高めることができていた。

### 【課題・できていないこと】

- ・ 一部の科目について、開講時期の検討が必要と考えられた。具体例としては、社会福祉の基礎を学ぶ「社会福祉論」が2年前期で、それを基盤に保健医療福祉の連携や地域医療連携システムを学ぶ「医療福祉システム論」が1年後期であり、カリキュラム編成や時間割など制約は大きいが開講時期の見直しの検討が望まれる。
- ・ 学生間で文章力・表現力の(学力)格差が大きく、入学前にこれを補完する対策が必要である。
- ・ ホスピタルプレイⅠ・ホスピタルプレイⅡは、内容やカリキュラムについて問題はないが、歯科衛生学科においては、1年生の開講科目になっているため、他学科の状態との差はある。全体的にはおおむね良好といえる。
- ・ カリキュラム・マップで示されたDP項目とシラバスで開示されているGIOならびにSBOsの整合性を科目ごとに検証する必要がある。
- ・ 「口腔保健管理学実習」(2年後期)では、2年前期に学習し単位と修得したはずの技能が全く実施することができないことが目についた。学内実習では試験やチェックを通して、合格できなければ補習や自己練習を行い、学生が自ら「できる」と自信を持てる水準まで持っていくことが必要である。そのため、学内実習でも評価を積極的に取り入れ、学生も教員も「できる」まで技能を向上させる努力が必要であると考えられる。

【その他・今後の検討事項等】

- ・ 現在、総合型選抜ならびに学校推薦型選抜からの入学予定者に対して「任意」で入学前教育を実施しており、受講科目に関しては客観的数値で成果が示されている。しかしながら、学生間で文章力・表現力の（学力）格差が大きい。そのため、一般選抜入学者への対象者拡充や実施時期の延長等、対策の検討が必要である。
- ・ 現状は3年制教育であるため、課題にあげたことは、3年制のカリキュラムのなかでより良い教育が行えるべく、調整していくことが必要と考えられる。
- ・ 今後更に充実した教育を遂行するために、引き続き、検証を定期的に行い、それをもとに、改善すべき点があれば、改善して行くことが重要である。
- ・ 科目の履修の多くが試験のための知識の暗記となる傾向がある。知識は使わなければ忘却してしまうので、科目間の横の連携を期待したい。